

## 監事に就任させて頂いて

至誠館 藤井 正巳

平成二十九年二月五日（日）、京都・平安の森ホテル・比叡の間に於いて第四回定時社員総会が開催されました。

社員総会において出席者全員の承認をいただき監事に就任となり、身の引き締まる思いであります。

これからは、道場の事も含めて、誠心誠意武徳会のため、会員皆様方のため努力してまいります。

監事の仕事は、大会の運営や定例理事会、監査委員会、等の参加並びに諸資料の点検考察など様々な諸問題に対処せねばならないと伺っております。

私自身勉強し、代表理事、副総裁、他の理事の方々にお教え願ひ職務を全うしたいと考えております。

これからは、武徳会のため、代表理事の言われる五つの目標に向かって邁進したいと考えております。

○伝統武道の保存継承 ○武徳会の活動の発展 ○国際的な発展  
○青少年の育成 ○財政基盤の確立

課題は、多難であります。最大限努力してまいります。

今まで数々の助言ご指導を賜りました各理事、監事の先生方ならびに代表理事、副総裁の懇切丁寧なご教示に感謝するとともに、これが

らもご指導ご鞭撻としてご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 監事就任のご挨拶

監事 中田 浩大

私は、平成二十九年二月五日の総会において、監事就任の承認を頂きました。歴史ある大日本武徳会の役員末席を汚すことになり、緊張で頭がいっぱいあります。しかし、引き受けた以上は一生懸命のため、会員のため尽くすことをお誓い申し上げます。

私は、小松市の古武道道場「こぼと修童館」で修行をし、主に小学生を対象に居合道を教えています。五十年まえに祖父が青少年育成を目的に道場を開いたのが始まりですが、初めの内は、小学生だけで七十人いたのが今では四十人を切る半減の状態。だんだん人気がなくなっています。多様化の社会では古くさいに居合道道場の入門はなかなか至難なことです。しかし、小学六年間を「こぼと修童館」で卒業した子どもの感想文を見ると、本人も親も、何もわからない基礎の世代に、日本文化の居合道の世界で規律ある静と動を体現出来たことは無形の財産となりました。と具体的な例を上げて記してありました。大日本武徳会全体でも会員数の減少、特に青少年の入会が少ないことが際立っています。

私は、自分の道場を立て直して、ひいては会の青少年育成に力を注